

世界トイレの日 11.19
WORLD TOILET DAY

災害に備える マンホールトイレ シンポジウム

マンホールトイレ整備・運用ガイドライン発表

主催 国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部



趣 旨

11 月 19 日は 2013 年の国連総会において定められた「世界トイレの日」です。世界には衛生的なトイレにアクセスできない人が約 25 億人もおり、不衛生な生活環境が原因で毎年多くの子どもたちが命を落としています。

一方で、日本においても災害時のトイレ機能の確保は、命と尊厳にかかわる重要な課題となっています。そんな中、東日本大震災において、東松島市の避難所に整備されていたマンホールトイレが発災後の比較的早い段階から使用され、悪臭もなく好評であったと報告されています。

そこで、本フォーラムでは、被災時においても快適で衛生的な生活環境を守るにはどのようなトイレ環境が必要かを、医療現場や避難所現場から学びます。また、女性視点による“使いたいと思うマンホールトイレ”を具体化するため『マンホールトイレ整備・運用ガイドライン』を発表すると同時に、私立目黒星美学園中学高等学校（東京）の女子生徒とのコラボレーションで「マンホールトイレの望ましい空間」を提案します。これら実践的取り組みをとおして、マンホールトイレの改善と普及を推進し、災害時のトイレ環境の向上を目指します。



開催概要

日 時	2015 年 11 月 19 日（木）13：00～16：40
会 場	日本科学未来館 7 F “未来館ホール” 〒135-0064 東京都江東区青海 2 丁目 3 番地 6 号
主 催	国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部
事務局	特定非営利活動法人 日本トイレ研究所
参加費	無料
申込方法	①氏名 ②所属先 ③メールアドレス ④電話/FAX 番号 をご記入の上、FAX またはメール(件名に「1119 マンホールトイレシンポジウム申込」と記載)にてお申し込みください。
(申込先)	特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 “シンポジウム事務局” FAX: 03-6809-1412 E-mail: web_ml@toilet.or.jp

アクセス

●新交通ゆりかもめ

「船の科学館駅」徒歩約 5 分／

「テレコムセンター駅」徒歩約 4 分

●東京臨海高速鉄道りんかい線

「東京テレポート駅」徒歩約 15 分



プログラム

12 : 00 受付開始

13 : 00 主催者あいさつ

塩路 勝久（国土交通省水管理・国土保全局 下水道部長）

13 : 10

報告 東日本大震災で実証されたマンホールトイレ ～被災経験から学ぶ～

小田島 毅（東松島市建設部下水道課長）

東松島市の避難所 2 か所で、発災翌日から住民主導でマンホールトイレが設置・運用され、多くの被災者に臭気の問題もなく使用してもらうことができました。このような取り組みが実現できた理由と、今後の改善策について紹介します。

13 : 50

提案 女子視点でのマンホールトイレの提案 ～使いたいと思えるトイレ～

京 百合子（目黒星美学園中学高等学校 教諭）

竹田 由実（国土交通省水管理・国土保全局 下水道部）

トイレが嫌だと多くの人は水や食事を控えてしまいます。「避難所だからこのぐらいでしょうがない」という考え方では、改善はすすみません。ここでは、女子視点を活かして、誰もが安心して使えるマンホールトイレ空間を提案します。

14 : 30

休憩①（10分）

14 : 40

講演 災害現場に求められる大切なこと ～トイレはライフライン～

秋富 慎司（防衛医科大学校 救急部 講師）

災害時のトイレ機能の確保は、命にかかわります。不衛生な環境下では、食事や医療も成り立たないのが現状です。東日本大震災の経験を踏まえ、災害現場に必要なチームやマニュアルづくり、支援システムづくりについて解説します。

15 : 30

休憩②（10分）

15 : 40

パネルディスカッション 災害時にも安心できるマンホールトイレの普及に向けて

発表 「マンホールトイレ整備・運用ガイドライン」

（国土交通省水管理・国土保全局 下水道部）

パネリスト 秋富 慎司（防衛医科大学校 救急部）

小田島 毅（東松島市建設部下水道課）

京 百合子（目黒星美学園中学高等学校 教諭）

茨木 誠、竹田 由実（国土交通省水管理・国土保全局 下水道部）

進行 加藤 篤（特定非営利活動法人日本トイレ研究所）

16 : 40

閉会

※プログラムは一部変更する場合がありますのでご了承ください。

スピーカープロフィール



小田島 毅 おだしま たけし

(東松島市建設部下水道課長)

平成19年の新潟県中越沖地震の応援で被災地のトイレの実情から、マンホールトイレ導入に尽力。東日本大震災では、避難所のマンホールトイレが大きな役割を果たす。現在、震災経験を元に更なる普及と改善に取り組む。



京 百合子 きょう ゆりこ

(目黒星美学園中学高等学校 教諭)

社会科教諭。宮城県出身であることから、勤務校において「被災地ボランティア研修」の企画を担当している。目黒星美学園では、宮城県を訪問する中で、災害時のトイレ問題に気づいたことがきっかけとなり、現在では生徒たちが「未来の被災者」として主体的に考える防災教育に取り組んでいる。



秋富 慎司 あきとみ しんじ

(防衛医科大学学校救急部 講師)

専門は救急、集中治療、災害医学、外傷外科等。2005年のJR 福知山線脱線事故では、現場の医療責任者の解散命令後にも留まり、7時間後に先頭車両に閉じ込められていたクラッシュ症候群になっている傷病者を発見、治療を開始した。2011年の東日本大震災では岩手県災害対策本部の医療班長として現場を指揮した。



茨木 誠 いばらき まこと

(国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道企画課 課長補佐)



竹田 由実 たけだ ゆみ

(国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道企画課)



加藤 篤 かとう あつし

(特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事)

■問合先（事務局）

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

〒105-0004 東京都港区新橋 5-5-1 IMCビル新橋 9F

TEL: 03-6809-1308 FAX: 03-6809-1412 <http://www.toilet.or.jp>

E-mail: web_ml@toilet.or.jp